

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成19年11月22日(2007.11.22)

【公開番号】特開2005-316970(P2005-316970A)

【公開日】平成17年11月10日(2005.11.10)

【年通号数】公開・登録公報2005-044

【出願番号】特願2005-90583(P2005-90583)

【国際特許分類】

G 0 6 Q 50/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 17/60 1 2 6 K

【手続補正書】

【提出日】平成19年10月4日(2007.10.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 8】

(計画情報入力モード)

テンキー領域10で、「P」キーが操作されると計画情報入力モードとなる。この計画情報入力モードでは、投薬、診療計画、治療、指導(患者への教育等)等の今後の治療計画に関する各項目が入力可能となる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 0】

図19Aの状態で、キーボード入力画面中の「OK」ボタンにより入力を確定すれば、追加又は修正後の計画情報が表示される。この際、図19Bに示すように、ラベル20dを含む計画情報の先頭側の一部が第2副領域9bではなく第1副領域9a中に評価情報に統いて表示され、残りの計画情報が第2副領域9bに表示される。この際、計画情報の最後尾の行が第2副領域9bに位置するように、計画情報の先頭側の一部が第1副領域9aに表示される。換言すれば、計画情報の最後尾の行をフレームアウトさせずに第2副領域9bに表示するのに必要な分だけ、計画情報の先頭側を第1副領域9aに表示する。これによって、医師はスクロール等の操作を行うことなく、新たに入力が確定した計画情報を迅速かつ簡単に確認することができる。なお、計画情報の一部を第1副領域9aに表示したことにより、主観情報全体及び客観情報の最後尾付近を除く殆どの部分が第1副領域9aの上側にフレームアウトしている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 1】

図19Bの状態からさらに客観情報の追加又は修正を行うためにテンキー10の「O」キーを操作すると、図19Cに示すようにメニュー領域11にキーボード入力画面が表示

される。テキスト入力後に、「OK」ボタンにより入力を確定すれば、追加又は修正後の客観情報が表示される。詳細には、図19Dに示すように、第1副領域9aの先頭にラベル20aを含む主観情報の全体が表示される。また、第1副領域9aには、客観情報に続いて評価情報が表示され、それに続いて計画情報の先頭側が表示される。計画情報の残りは第2副領域9bに表示されるが、最後尾付近は第2副領域9bの下側にフレームアウトしている。図19Bに示す状態から主観情報や計画情報を追加又は修正した場合も同様に、追加又は修正が確定した情報が第1副領域9aの先頭に表示される。これにより医師はスクロール等の操作を行うことなく、新たに入力が確定した主観情報、客観情報、又は計画情報を迅速かつ簡単に確認することができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

図24Aに示すキーボード入力画面で学習呼出ボタンを操作すると、図24Bに示す入力候補画面が別ウィンドウとして表示される。この入力候補画面には「学習1」から「学習9」と表記された9個の文書が入力候補として表示される。これらの入力候補は後述する登録操作によって、記憶装置4の文書に関する学習登録テーブル(図1参照)に予め登録されている。この例では「学習1」から「学習3」に文書が登録されている。また、投薬や注射に関する学習機能の場合(図11参照)と同様に、テンキー領域10の数字キーには「学習1」から「学習9」が割り当てられる。テンキー領域10の数字キーの選択、又は入力候補画面の入力候補に対するダブルクリック等の操作により、いずれかの入力候補が図22Aに示すキーボード入力画面に表示される。